

第 150 回 岐阜歯科学会例会

- 1) 開催日 平成17年2月19日(土)午後1時より
- 2) 会場 朝日大学1号館3階 第1大講義室

特別講演

座長 関根 一郎 教授

1. 岐阜県における介護保険の現状と制度改革について

岐阜県歯科医師会理事・福祉医療委員会委員長
水野 明広 先生

介護保険制度が始まり5年が経過し、当初の混乱も落ち着き、また平成15年には、3年ごとの改訂があり、現在は制度が定着してきました。しかし一方では、当初の基本理念との相違点や新たな課題が指摘されています。

歯科界にとっても介護保険が導入されたことにより、福祉分野への関わりを深めるきっかけとなり、訪問歯科診療・口腔ケアなど要介護者への歯科医療の提供が推進されてきました。岐阜県においても160名程度の歯科医師が各地で介護認定審査員として出務し、他の医療関係者や福祉関係者との連携も深まりました。

今後迎える高齢社会で増加する要介護高齢者の「食」に関してや、誤嚥性肺炎の予防など、歯科医療・摂食嚥下リハビリ・口腔ケアについて、我々歯科界が果たす役割は大きくなってきています。

今回の発表では、現在の岐阜県における介護保険の状況・歯科の居宅療養管理指導の状況を報告すると共に、平成18年度介護保険制度見直しに向かっている社会保障審議会の考え方やモデル事業、歯科としての係わりについて述べます。

座長 田村 康夫 教授

2. フィールド成果を科学して29年

朝日大学歯学部口腔感染医療学講座
社会口腔保健学分野 磯崎 篤則 教授

1975年から始まった旧穂積町のフィールド活動は、現在(2005年)も継続実施している。1小学校が積極的なう蝕予防を導入したいとの話から始まった活動が、現在では1幼稚園、4小学校、2中学校、成人式に口腔診査を行うまでに広がった。研究室関係者全員が協力し、信頼ある視診型口腔診査のために努力してきた。診査基準がキャリブレーションされ、診査記録者もベテランが行い、同じ診査器具を用いて30年、得

られた成績から数多くの成果を見出せた。

1. フッ化物濃度500ppm週5回法によるフッ化物洗口法
 - a フッ化物洗口開始年齢によるう蝕予防効果の差
 - b 歯の萌出時期とフッ化物洗口開始時期によるう蝕予防効果の差
 - c う蝕感受性の差によるう蝕予防効果の差
 - d 小学校の規模によるう蝕予防効果の差
2. フッ化物濃度250ppm週5回法によるフッ化物洗口法
 - a フッ化物濃度によるう蝕予防効果の差
 - b 学校の規模によるう蝕予防効果の差
3. フッ化物濃度100ppm週5回法によるフッ化物洗口法
 - a フッ化物濃度によるう蝕予防効果の差
4. フッ化物洗口法のう蝕予防効果の持続性
 - a 中学校時点までのう蝕予防効果の持続性
 - b 20歳までのう蝕予防効果の持続性フッ化物濃度によるう蝕予防効果の差
歯種によるう蝕予防効果の差

近年、わが国では健康日本21が策定され、都道府県においても地方計画が策定された。ほとんどの都道府県で12歳児のDMFT数の目標が挙げられており、2010年には到達目標値1~2の達成を目指し、う蝕低減のためにフッ化物配合歯磨剤の使用、フッ化物洗口法の導入が求められるようになった。我々のこれからの役割は、多くの研究成果を各地域住民にアピールすると共に、正しいフッ化物の知識を普及することである。

一般講演

座長 田村 康夫 教授

1. 朝日大学歯学部附属病院内科病棟入院患者に対する口腔ケア

橋本 岳英¹⁾・大山 吉徳¹⁾・安田 順一¹⁾
玄 景華¹⁾・青木 尚美²⁾・岡 直子²⁾
野々垣静子²⁾・堀 ちくみ³⁾・宮本 洋通⁴⁾

(¹⁾朝日大学歯学部総合歯科学講座
障害者歯科学分野)